



グリーン交悠録

我グリーン交友録

ゴルフの素晴らしさを伝えながら
1万ラウンドを目指したい

本誌主幹 大中 吉一



—今年のゴルフはどんな具合ですか。

大中 1月9日を皮切りに、1月15日の大阪ガスのコンペでは零下何度という寒さの中でしたが、もちろん18ホールきちんとラウンドしました。

—ゴルフをしているとお元気ですよね。

大中 何と言っても私にとってゴルフは元気の源です。忘れもしません2016年8月4日に心筋梗塞で倒れたのですが、全治2ヶ月と言われたものを2週間で退院し、9月29日に再診をしていただき大丈夫だと思ったのですが、なんとその日に銀座フォーラムの勉強会に出て脳梗塞で倒れてしまったのです。5日間の点滴で再起したのですが、じつは10月4日に私が主催するゴルフコンペがあったからなのです。

—コンペに行くために病気を克服してしまったのですか。

大中 そうなりますね。69歳の時に始めた古希を記念してのコンペだったのですが、どうしても退院の許可が出ませんでした。そこで病院とドクターにご迷惑がかからな

いように「外泊」ということにして、始球式だけやると嘘をついてキングフィールズゴルフクラブに駆けつけました。

—始球式ですね。

大中 いえ、さすがに午前中は60も叩きましたが、午後からは47というまずまずのスコアになりました。

—18ホール全部をラウンドしたのですか。

大中 男たるもののコースに出る以上、18ホールをきちんとラウンドするのは私の信条です。その時にも思いましたね。ゴルフは私の元気の源なのだ。病気を治すためにゴルフを

しているのだと実感しました。

—なるほど

大中 これまで数限りなくゴルフコンペの幹事をしてきましたが、私自身は当日キャンセルをしたこともありませんが、必ず18ホールをきちんとラウンドしてきました。そして19番ホールでのさまざまな方たちとの交流こそ大切だと思います。

—以前からそのことはおっしゃっていましたね。

大中 53年前、本誌を創刊した後、TBSテレビの時事放談で小汀利得氏と名対談をしておられた細川隆元氏のところに対談の連載を



TBSの『時事放談』で小汀利得氏とホストを務めた細川隆元氏



第56・57代内閣総理大臣 岸信介氏

お願いに行つたのです。
— いきなりお願いに伺つたのですか。

大中 もちろん、けんもほろろに断られました。それから100回も通つたでしょうか。ある日、私の熱心さを認めてくださったのか、連載を快諾していただきました。そこから「月刊公論」という雑誌も、大中吉一という編集者も細川隆元氏が連載をし、応援をしてくださつてゐるということで各方面に信頼を頂くようになりました。

— それで東京に進出されたのですね。

大中 そして23歳の時に細川隆元氏から公益財団法人国策研究会の矢次一夫氏をご紹介いただきました

た。事務所に何うと岸

信介氏、福田赳夫氏、安倍晋太郎氏、越智通雄氏、三塚博氏など清和政

策研究会の錚々たるメンバーがいらつしやいました。そしてゴルフに誘つていただいたのです。

— すていメンバーですね。

大中 TBSの今道潤三氏と小金井カントリー倶楽部に二緒した時もそうでしたが、さすがの大中吉一も緊張してゴルフになりませんでした。でもそうした中から私は18ホールのゴルフもさる事ながら、その後19番ホールで何を語るのが大切であるということを学んだのです。

— 単なるゴルフであつても、それ以上の何かがそこにあら

るということですね。

大中 その通りです。

国策研究会の皆さんとご二緒したのは富士ゴルフコースでしたが、美しい富嶽の姿とともに、19番ホールで伺つたさまざまなお話は今も耳に残っています。ゴルフ



ラジオ東京（現東京放送（TBS））元社長 今道潤三氏

コースにおける交流は、応接間ではできない対話を可能にしてくれるのです。そのことを大切にしなければなりません。

— いまもそのゴルフ会は続いているそうですが。

大中 毎年6回、今年で38回とのことです。60年以上続いていることになりですね。本当にゴルフが好きな方たちが居てこそ続いているのですね。

— ゴルフで勝敗に執着する方もいますか？

大中 せっかくのコンペなのに、スコアを誤魔化したり、賭けゴルフに熱中したりする図はいただけませんね。よく言われますが、ゴルフは紳士のスポーツです。例えばスコアを誤記してしまったなどと思つたら、自分の認識より1打多く申告するぐらいでなければならぬと思いま

す。賭け事についても、数1000円のチョコレート程度ならまだしも、それで家を取られたり身上を潰したりするようでは本末転倒も甚だしい。もつともつとゴルフに対する愛着を大切にしていきたいと思います。

— まだまだ道半ばというところでしょうか。

大中 私は一生に1万ラウンドするのが夢なのです。いまのところ年間に120ラウンドですから、このまま行けば100歳は超えてしまうことになりですね。それを続けていけることが健康の証なのだと思います。ゴルフをすることで元気になる。元気になることでまたまたゴルフが続いていける。そんな循環を繰り返しながら、読者の皆様にも、ぜひこのゴルフ交悠録をお楽しみいただければと考えております。

— ゴルフあつての大中さんということですね。

大中 そういうことになりましたね。これからもゴルフに愛着を持ち、ゴルフの素晴らしさをお伝えしていけたらと思います。